



## 「震災」

陸前高田市立広田中学校 大森厚志

### 【震災当日】

卒業式前日のため、早めの短活終了予定時間後まもなく地震が発生した。すでに帰路についていた6名と早退の生徒1名以外の全生徒が教室内におり、自分の机の下に隠れて地震が治まるのを待ち、その後体育館へ避難した。広田中学校は避難場所のため、150人弱の地域住民(自家用車数十台)が避難してきた。どこからでも入れるよう体育館は開放状態にし、動けない高齢者のために、毛布と担架を用意した。この時点で体育館に避難していない生徒・教職員は、職員室で待機していた事務職員1名と、生徒の防寒着を取りに戻った学年長の2名のみであった。

校舎とほぼ同じ高さにある堤防を津波が越えてきた時点で二次避難を開始した。目的地は、更に10m高い高田高校広田校舎のグラウンド。校長が先頭、生徒が続き、副校長と数名の教職員が地域住民と高齢者を担架に乗せて運び、最後尾となった。また、校舎にいた事務職員と学年長1名が異変に気づき、一緒に避難した。避難の途中三年生は、隣にある広田保育園の中で園の先生に群がって恐がっている園児を拾い上げ、ある者は両手に二人の園児を抱えて斜面を登り、また、ある者はバケツリレー形式で園児を斜面に引き上げるなどして二次避難所へ登った。その時点で、広田中学校のまわりには津波が押し寄せており、最後尾に避難した者は水が足元に押し寄せてくる寸前での避難であった。

二次避難所へ到着して、生徒は更に高い所へと登らせ、教職員は津波の様子を観察しながら、第二波・第三波に備えた。津波が落ち着いた様子を確認した上で生徒を下ろし、グラウンドで点呼を行った。帰宅した生徒6名と、早退の生徒1名を除いて全員異常なし。その後の職員打ち合わせで、学年長1名が校舎に取り残されたままだということが発覚した。津波を十分に警戒しながらも、安否を確認したところ、三階コンピュータ室で学年長1名の無事を確認した。本当の意味での全員無事が確認したところで、広田小学校の体育館が避難所であることを確認し、十分な警戒の元に、全員で広田小学校体育館に移動した。

避難所に着いて点呼終了後、迎えに来た保護者には生徒を帰宅させた。また、まとまって帰宅させた地区もある。避難所に残った生徒と教職員は、地区の人や小学校の教職員と協力して、炊き出しの手伝い、衣料・毛布等の配布、暖房器具の設置、体育館の管

理、等を積極的に行った。迎えがなかった生徒は、家族の安否が定かでない上に、毛布等は高齢者・園児・小学生に優先して使用させたため、寒さに耐えしのぎながらも、まんじりともしない一夜を送った。

数日後、家庭訪問や消防団からの連絡により、安否不明であった7名の生徒の安全が確認された。

### 【それから】

津波により校舎の一階内部が破壊され、加えて校舎の法面が崩されたために、広田中学校は使用不能となり、4月から広田小学校に間借りして学校を再開することとなった。この時点で広田小学校には、小学校・中学校の他に避難所・診療所・地区コミュニティセンターが入っており、まさに地区の総合センターとして役割を果たしていた。この状態は7月まで続くこととなる。すべての機関が入ったために教室は満杯となり、中学校には特別教室が3つ割り当てられた。まさに、小学校内のどの部屋にも必ず誰かがいる状態である。そのような中で学校は新年度を迎えたわけだが、授業は教室でしか行うことはできず、技能教科を行う場所は一切なかった。

ありがたいことに、色々な方々からかなりの支援物資をいただいた。特に学校にはノート・文房具・運動着を含めた衣類等が数多く寄せられ、新年度は文房具に関してはかなり潤沢な状態で授業をスタートすることができた。しかし、それは教室の中で行う授業に限られたものであって、理科の実験・技術家庭のものづくり・美術の作品制作に至っては、用具がほとんどない状態であった。そこに同じ教員としての立場から援助していただいたのがEd.ベンチャーさんであった。特に理科の実験用具に関して多大なる支援を頂き、理科実験を行う時は、理科室を教室として使っているクラスと教室を取り変えて実験を行うことができるようになった。また、技術の免許所有者のいない本校にとって、技術室のないところでの授業はかなりの難題を伴うものであったが、技術の専門教員による的確なアドバイスのもとに支援を頂き、生徒に満足感のあるものを製作させることができた。

現在の状況を解消するために学校統廃合の構想が持ち上がっており、幼・小・中合同でのPTAや地区で方向性を検討している段階である。そのような中で、昨年度までの学校生活と比べればまだまだ充実していない設備ではあるが、たくさんの方々から頂いた支援や応援メッセージを受けて、限られた条件の中で生徒・職員共に工夫しながら積極的に学校生活に取り組んでいる。これから、頂いた善意を糧に全校が一丸となって、

一歩ずつ確実に学校再建へ向けて歩いていかなければならない。

数々のご支援、本当にありがとうございました。

#### 1、地震発生時

卒業式前日のため、早めの短活終了予定時間後まもなく地震が発生した。予定通り短活を終了し、帰路についていた2年男子の6名と早退の生徒1名以外の全生徒が教室内におり、担任の指示のもと自分の机の下に隠れて地震が治まるのを待った。職員は、揺れている最中はその場で待機し、揺れが治まってから手分けして次の行動を行った。

- ① 生徒へ体育館への避難指示。および誘導。
- ② 校舎を巡回し、破損箇所・危険箇所の確認。

#### 2、避難Ⅰ

広田中学校は避難場所になっていたため、生徒・教職員共に体育館へ避難した。地域住民もぞくぞく集まり、最終的には150人弱の住民(自家用車数十台)が避難してきた。住民の方がどこからでも入れるよう体育館は開放状態にし、一輪車で避難してきた動けない高齢者のために、毛布と担架を用意した。余震が続く中、生徒が寒さを訴えたので、各学年長にそれぞれの学年の防寒着を教室から持ってくるよう指示した。この時点で体育館に避難していない生徒・教職員は、職員室にいる事務職員1名と、防寒着を取りに戻った学年長の2名のみであった。

#### 3、避難Ⅱ

校長が外で地域の消防団と、副校長と用務員が体育館の二階で津波の様子を観察していた。地域の消防団からは「ここまでは、絶対に津波は来ない。」という声が聞こえていたが、校舎とほぼ同じ高さにある堤防を津波が越えてきた時点で判断し、二次避難を開始した。目的地は、高田高校広田校舎のグラウンド。校長が先頭、生徒が続ぎ、副校長と数名の教職員が地域住民とともに動けない高齢者を担架に乗せて運び、最後尾となった。また、校舎にいた事務職員と学年長1名が異変に気づき、一緒に避難した。避難の途中三年生は、隣にある広田保育園の中で園の先生に群がって恐がっている園児を拾い上げ、ある者は両手に二人の園児を抱えて斜面を登り、また、ある者はバケツリレー形式で園児を斜面に引き上げるなどして二次避難所へ登った。その時点で、広田中学校のまわりには津波が押し寄せており、最後尾に避難した者は水が足元に押し寄せてくる寸前での避難であった。

#### 4、避難所への避難と対応

二次避難所へ到着して、もっと高い津波が来ることも考えられるので、生徒は更

に高い所へと登らせた。教職員は、津波の様子を観察しながら、第二波・第三波に備えた。一時間程度様子を見た後、津波が落ち着いた様子を確認した上で生徒を山から下ろし、グラウンドで点呼を行った。早く帰った生徒6名と、早退していた生徒1名を除いて全員異常なし。その後、全教職員が集まって今後の対応を確認する段階になって、学年長1名が校舎に取り残されたままだということが発覚した。津波を十分に警戒しながらも、急い2名の職員で校舎に戻り、安否を確認したところ、三階コンピュータ室で学年長1名の無事を確認した。本当の意味での全員無事が確認したところで、広田小学校の体育館が避難所として機能していることを確認し、十分な警戒の元に、全員で広田小学校体育館に移動した。

避難所に着いて点呼終了後、迎えに来た保護者には家の状況等も確認しながら生徒を帰宅させた。また、地区の代表者が山越えをして迎えに来た所もあり、山越えの際の安全の確認を行った上で、まとまって帰宅させた地区もある。避難所に残った生徒と教職員は、地区の人や小学校の教職員と協力して、炊き出しの手伝い、衣料・毛布等の配布、暖房器具の設置、体育館の管理、等を積極的に行った。迎えがなかった生徒は、家族の安否が定かでない上に、毛布等は高齢者・園児・小学生に優先して使用させたため、寒さに耐えしのぎながらも、まんじりともしない一夜を送った。

数日後、家庭訪問や消防団からの連絡により、安否不明であった7名の生徒の安全が確認された。

#### 5、おわりに

今、再び七ヶ月前の出来事を思い起こすにあたり、場面場面の判断が正しかったかどうかを検証し、今後の危機管理に生かさなければならないという必要性を感じる。今回の津波による災害で私達は多くのものを失ったが、悲観するのではなく新しい行動を起こしていかなければならない。そのような中で、今春卒業した三年生が避難する際に保育園の園児達を当たり前のようにならざるに避難させた行動に成長を感じると共に、何か新しい行動を起こしてくれそうだという希望が感じられる。そんな三年生達をきちんとした卒業式で送りだしてやれなかったことが、大変残念でならない。

今後の継続的な支援の活動のために広く寄付を募っております。

横浜銀行 中央林間支店 普通6018180

Ed.ベンチャー東日本大震災支援 (Edベンチャーヒガシニホンダイシンサイシエン)

**NPO法人教育支援グループ Ed.ベンチャー**

〒242-0007 大和市中央林間 3-16-12-107

Tel/Fax:046-272-8980 e-mail: toiwase@edventure.jp

